

2030年までの国際目標

SDGsと済生会

ソーシャルインクルージョンが拓く明日



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

1 貧困をなくそう	2 健康をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 2030年に向けて世界の共通の「持続可能な開発目標」です



Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

社会福祉法人 恩賜財団 済生会

〒108-0073 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル21階

TEL: 03-3454-3311 (代)

E-mail: headoffice@saiseikai.or.jp

社会福祉法人 恩賜財団 済生会



SDGsとは、 世界中すべての人を 幸せにするための目標。 これは済生会の思いと同じです。

「SDGs」という言葉をご存じですか。

地球に住むすべての人たちが幸福に暮らせるように定められた世界共通の目標です。

これは済生会が創設以来、活動の柱としてきた理念そのもの。

わたしたちは特別新しいことを始めるのではなく、これまでの事業を強化することで、
目標達成のために貢献していきたいと考えています。



CONTENTS — SDGsと済生会 目次

- P02-03 SDGsとは
- P04-11 済生会が達成に貢献するSDGsの目標
- P12-14 「済生会の活動そのものが世界につながっている」
——理事長 INTERVIEW
- P15 社会貢献は創設の原点——済生会の活動

SDGs
＝国連で採択された
「世界共通の目標」

2015年9月、国連本部で150カ国以上の加盟国首脳が参加した国連サミットが開かれ、将来の世界の在り方を協議しました。その席で、「誰一人取り残さない」というスローガンのもと、いかなる場所や状況にある人でも等しく対象とする17の世界共通目標が全会一致で採択されました。これが「SDGs(エスディーゼーズ)」です。「Sustainable Development Goals」の頭文字を取ったもので、「持続可能な開発目標」と訳されています。

具体的な道が示されている
SDGs

SDGsは、地球規模の経済・社会や環境等、多岐にわたる問題を解決するために生まれた指針です。「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくり」など、2030年までに達成すべき17の目標と、それらを実現しやすいように細分化した169のターゲットを軸に構成されています。これは、生活困窮者支援が創設の原点である済生会が「施薬救療の精神」(P04 参照)のもと、医療・福祉の分野で取り組んできた事業そのものです。

既に世界で
広がり始めた
SDGs

SDGsの影響は世界中で広がり始めています。それはSDGsが開発途上国の課題ばかりではなく、先進国が抱える格差の解消・働きがいの創出・成熟期の経済成長などの問題までも包括している普遍的な目標だからでしょう。SDGsは国やわたしたち社会福祉法人、地方自治体、企業、教育機関、NPO等だけでなく、国民一人ひとりが取り組んでいかなければならない課題です。

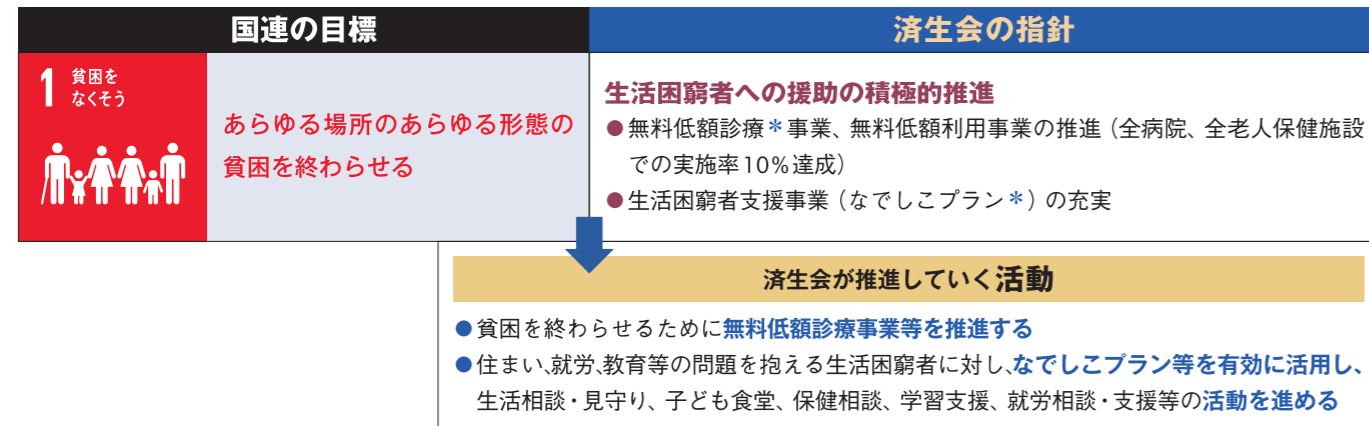
済生会における
SDGs
の意味

SDGsの中には、わたしたち済生会の事業と特に関わりの深い目標が多数あります。これは、済生会が医療・福祉の分野で本業として真正面から取り組んできた活動や、第2期中期事業計画(2018～2022年度の5カ年計画)の中で取り組みを強化している事項と重なるものです。済生会で働く約6万人の職員がSDGsの精神を理解し、目標達成へ尽力することが求められています。

済生会が達成に貢献するSDGsの目標

SDGsが掲げている17の目標の中には、わたしたち済生会の事業と密接に関連するものと、間接的に関わりをもつものがあります。済生会が既に取り組んでいる事業や、第2期中期事業計画で取り組みを強化している事業がどの目標と関連するのか、活動の具体例をあげて確認しながら、目標達成への確かな指針としていきます。

* = P04「KEYWORDS」(用語説明)をご参照ください



写真=大阪府済生会の8病院が協働し、無料で検査や問診、生活指導などを行なう釜ヶ崎健診事業。毎年約800人が受診



写真=(新潟)三条・特養長和園は市内に「オープンハウスRAN南」を開設。月1回・毎回50人以上が利用する子ども食堂と、週3回営業の高齢者サロンが開かれている




写真=愛知県済生会リハビリテーション病院では、集団健診のないブラジル人学校で、子どもたちを無料で健診している



写真=広島病院では、更生保護施設の入所者を対象に年4回健診を実施。希望者にはインフルエンザの予防接種も行なっている

2 飢餓をゼロに



飢餓を終わらせ、食料安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する

KEYWORDS ———— 本書を読み進めていただくために

せ やく きゅうりょう 施薬救療 「生活苦で医療を受けることができずに困っている人々を施薬救療(無償で治療すること)によって救おう」という明治天皇の済生勅語の中のお言葉。創立以来、済生会の活動の柱となっている。

無料低額診療 生活保護受給者をはじめ、経済的に困っている人の医療費を無料または減額する事業。済生会では全国すべての医療施設で展開しており、平成29年度は延べ204万人が対象となった。

ソーシャルインクルージョン 社会福祉に関わる諸制度が充実してきた現代でも、社会的援護を必要としている人々すべてに社会や福祉の手が届いているわけではない。こうした人々を救うために地域社会の「つながり」を構築して、いかなる人も排除されない社会づくりをめざす理念。

なでしこプラン 医療・福祉サービスが届きづらいホームレスや家庭内暴力(DV)被害者、刑務所出所者、障がい者、高齢者、在留外国人等に、巡回健診、予防接種、健康相談などを行なう、済生会独自の生活困窮者支援事業。

済生会人 済生会の歴史的意義を自覚し、「施薬救療の精神」を体現する人材。済生会人には、思いやりの心を持ち、確かな知識と技術を身に付け、地域とつながり、未開拓の分野に挑み、事業の持続的発展に務めることが求められる。

済生会地域包括ケア連携士 済生会の地域包括ケアシステムを実現させるためには、行政、企業、NPO、ボランティア、自治会など各方面との協働が不可欠。済生会では、組織の内外との連携を担う「済生会地域包括ケア連携士」を積極的に育成。一定の実務経験を有し、所定の研修を終了した者を認定している。

済生会地域包括ケアシステム 高齢者に限らず、障がい者、児童、ホームレス、刑務所出所者等のあらゆる生活困窮者を対象に、医療・福祉・介護に限らない幅広いサービスを提供する済生会の地域包括ケアシステム。対象者の人権を最大限に尊重しつつ、住民本位の事業を進める。

DCAT 災害派遣福祉チーム(Disaster Care Assistance Teamの略)。東日本大震災をきっかけに、済生会が総合的な医療・福祉サービスを提供する組織の特性を活かして全国に先駆けて設置。介護職員等で編成され、被災した福祉施設や避難所等へ派遣される。近年では熊本地震や西日本豪雨災害などで支援を行なった。

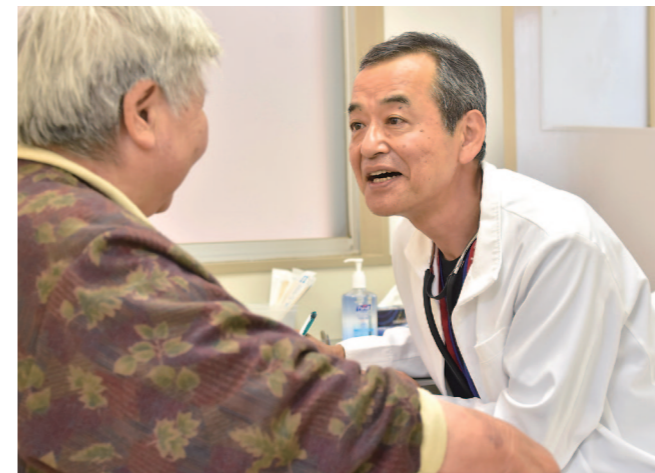
国連の目標	済生会の指針
<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> <p>あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する</p>	<p>地域医療への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公的医療機関としてこれからも地域医療へ貢献する <p>総合的な医療・福祉サービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者のみならず、障がい者、児童及びホームレス、刑務所出所者等の生活困窮者に対して、包括的な支援・サービスを提供する <p>積極的経営の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 増大する役割に的確に応じるため、「攻めの経営姿勢」で臨み、質の向上、業務範囲の拡大、提供サービス事業量の拡大を図る
<p>済生会が推進していく活動</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 保健・医療・福祉を総合的に担うことができる済生会は、高齢者、障がい者、児童及びホームレス、刑務所出所者等の生活困窮者に対して、包括的・継続的なサービスの提供を行なう 	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者や利用者、地域、行政、各種団体等とのつなぎ役として「済生会地域包括ケア連携士*」を育成し、包括的なサービス提供体制の充実を図る



写真＝滋賀県病院を基地病院とする「京滋（けいじ）ドクターヘリ」は、滋賀県全域、京都府南部、福井県南部が運航範囲。患者を滋賀県病院に搬送してきた場合は屋上ヘリポートに着陸し、患者を1階の救命救急センター初療室まで直通エレベーターで搬送する



日本で唯一の診療船「済生丸」を運航。小さな島々の多い瀬戸内海で巡回診療を行なうなど、離島やへき地での医療活動を続けている 写真＝済生丸は昭和37年12月に就航、現在は4代目



写真＝2016年8月の台風被害で運営を休止した(岩手)岩泉町立安家(あつか)診療所の診療が再開。岩泉病院では医師や職員を派遣している



写真＝(新潟)三条病院の手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」



写真＝園内で落ち葉遊びをする長野保育園の園児たち






写真＝(山口)貴船福祉ケアセンターでは、施設の畑で栽培した野菜を、入居者と管理栄養士と一緒に収穫


国連の目標	済生会の指針
<p>4 質の高い教育をみんなに</p> <p>すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する</p>	<p>生活困窮者への援助の積極的推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生活困窮者支援事業（なでしこプラン）の充実 <p>医療・福祉の周辺分野への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医療、福祉、住まい、就労、教育、生活費等の多種多様に複雑化した問題を抱え、多様な援助を必要とする人々への支援
<p>済生会が推進していく活動</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● すべての子どもや生活困窮者などに教育機会を提供していくために、なでしこプラン等を有効に活用し、行政、教育機関、NPO、ボランティア等と連携し、教育、学習支援・相談等の支援活動を進める 	





済生会では、生活困窮世帯やひとり親世帯等の子どもを対象に、子ども食堂などの支援活動を行なっている 写真＝(埼玉)特養彩光苑では、対象世帯の子どもに向けた学習支援「なでしこスクール」を立ち上げた。学習指導は、近隣の4大学の学生にボランティアをお願いしている

国連の目標		济生会の指針
5 ジェンダー平等を実現しよう 	ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行なう	コンプライアンスの徹底 <ul style="list-style-type: none"> ● 社会福祉法の改正を踏まえて、コンプライアンスおよびガバナンス体制の整備を推進する ● 医療・福祉サービスの質の向上 ● 働きやすい職場づくりの推進、職員のキャリアアップに努める
		济生会が推進していく活動 <ul style="list-style-type: none"> ● より広汎にジェンダー平等やエンパワメント等を実現するために、わが国最大の社会福祉法人として、高度な社会的責任を果たしていく ● 誰もが働きやすい職場づくり、職員のキャリアアップに努める
济生会は職員に各種のキャリア支援制度や研修システムを用意 写真＝(東京) 济生会本部で実施される全国の中堅看護師研修		


6 安全な水とトイレを世界中に 	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
---------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------

国連の目標		济生会の指針
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	医療・福祉サービスの質の向上 <ul style="list-style-type: none"> ● 施設・設備の近代化の促進
		济生会が推進していく活動 <ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー効率の改善を図るため、必要性、採算性、資金調達方法等を考慮しながら、施設・設備の近代化、エネルギーの効率的な活用、再生エネルギーの活用を推進する
省エネ診断など設備面での対策はもちろん、全国の担当者が様々な手法を学んだり議論を深め合う「省エネ推進会議」を開催するなど、職員全体への省エネ意識の浸透を図っている 写真＝熊本病院の外来がん治療センターは「構造的に環境に配慮した緑化」が設計コンセプト。建物中央部分が吹き抜けになっており、晴天時は1階から4階まで照明が不要		

国連の目標		济生会の指針
8 働きがいも経済成長も 	包摂的かつ持続可能な経済成長およびすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する	積極的経営の推進 <ul style="list-style-type: none"> ● 増大する役割に的確に応じるため、「攻めの経営姿勢」で臨み、質の向上、業務範囲の拡大、提供サービス事業量の拡大を図る
		济生会が推進していく活動 <ul style="list-style-type: none"> ● 包摂的かつ持続可能な成長や働きがいのある雇用等を促進するため積極的経営を推進し、障がい者等の就労支援、雇用の拡大等を図る
济生会は、施設が地域の雇用に貢献し続けられるよう、経営基盤の安定化に努めている。また、障がい者、がん患者などの就労支援に積極的に取り組んでいる 写真＝(熊本) ほほえみ「パン工房ふわり」では、パン作りを通じた障がい者の就労継続支援事業を行なっている。でき上がったパンや菓子は、訪問販売のほか、熊本病院内のベーカリー&カフェでも販売されている		


国連の目標		济生会の指針
9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進およびイノベーションの推進を図る	地域医療への貢献 総合的な医療・福祉サービスの提供 <ul style="list-style-type: none"> ● 最新テクノロジーを活用した医療・介護サービス等の提供
		济生会が推進していく活動 <ul style="list-style-type: none"> ● 包摂的かつ持続可能な産業化、イノベーションの促進等を図るため、ICT(情報通信技術)の整備、AI(人工知能)を活用した医療、手術、介護支援のロボット技術等の最新テクノロジーを活用した医療や介護サービスを提供する
保健・医療・福祉の質の向上を目指し、最新テクノロジーを活用する他、本会のスケールメリットを生かして組織横断的グループが研究活動をしている 写真＝東神奈川リハビリ病院は「スマートリハ」の中核施設の一つとして、先進的なリハビリテーション治療を推進		


国連の目標		济生会の指針
10 人や国の不平等をなくそう 	各国内および各国間の不平等を是正する	すべての重点項目に関連 <ul style="list-style-type: none"> ● 不平等の是正を図るために、ソーシャルインクルージョン*の理念のもと、医療、福祉、住まい、就労、教育等の多種多様に複雑化した問題を抱えるすべての人々に多様な支援を行なう ● 济生会保健・医療・福祉総合研究所(济生会総研)を中心に、支部・施設の協力のもと、「济生会人*」の育成を進める
		济生会独自の地域包括ケアシステム*は、地域で暮らすすべての生活困窮者等を対象にした支援を目指している 写真＝山口刑務所内で開かれている受刑者対象のヘルパー養成講座。山口地域ケアセンター等から講師を派遣し資格取得を支援、出所後は職員として採用する全国初の試み
		2015年1月、国際連携推進委員会を発足。アジア各国との国際連携を推進し、研修生・資格候補者の受け入れ、指導者の派遣、機材の提供などを行なっている 写真＝2015年、ベトナム・ダナンがん病院と「連携事業包括覚書」を締結・調印した

国連の目標		済生会の指針
11 住み続けられるまちづくりを 	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市および人間居住を実現する	医療・福祉の周辺分野への取り組み ●医療、福祉、住まい、就労、教育、生活費等の多種多様に複雑化した問題を抱え、多様な援助を必要とする人々への支援 まちづくりへの寄与 ●行政、団体、企業等と連携し、経済、社会、文化、環境など多様な面で発展するまちづくりに寄与する
		済生会が推進していく活動 ●すべての人々が安心して住み続けられるまちづくりのために、 高齢者、障がい者、児童及びホームレス、刑務所出所者 等すべての人々に対して、保健・医療・福祉サービス等の提供を通じて、雇用創出、産業振興、居住人口増加等の機能を果たし、可能な限り 住み慣れた地域で生活を継続することができるようなまちづくりに寄与する



写真＝兵庫県済生会が神戸市の団地に開設した高齢者向け相談所「なでしこ暮楽部」。孤独死等を防ぐため、職員が団地を巡回・訪問している

12 つくる責任 つかう責任 	持続可能な生産消費形態を確保する
------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------

国連の目標		済生会の指針
13 気候変動に具体的な対策を 	気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる	災害対策の推進 ●病院におけるBCP（事業継続計画）マニュアルの整備 ●広域災害を想定した訓練の実施 ●ロジスティクス担当者の育成 ●DCAT（災害派遣福祉チーム）の派遣体制の構築 ●東日本大震災復興支援事業の推進
		済生会が推進していく活動 ●気候関連災害や自然災害等に対処していくために、本会病院のBCPマニュアルの整備、 複数病院間で連携 する広域災害を想定した 災害医療訓練の実施 、 ロジスティクス担当者の育成 を進める ● DCAT（災害派遣福祉チーム）* の派遣体制を構築する ● 陸前高田診療所 において被災地の医療・福祉の 再建支援事業 を進め、地域の活性化に取り組む




写真＝特養なでしこ香川の屋上にあるソーラーパネル





写真＝2016年4月発生した熊本地震で、熊本病院は直ちにトリアージブースを設置、続々と運ばれる救急患者に対応した




写真＝2016年8月の東北地方を襲った台風10号による被害で支援活動中のDCAT隊員

14 海の豊かさを守ろう 	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------

15 陸の豊かさを守ろう 	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復および生物多様性の損失を阻止する
------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------

国連の目標		済生会の指針
16 平和と公正をすべての人に 	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する	コンプライアンスの徹底 済生会が推進していく活動 ●平和で包摂的な社会や制度の構築等を図るために、 わが国最大の社会福祉法人としてより高度な社会的責任を果たしていく ●改正社会福祉法を踏まえたコンプライアンス及びガバナンス体制の整備を推進する

国連の目標		済生会の指針
17 パートナーシップで目標を達成しよう 	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる	国際連携の推進 済生会が推進していく活動 ●グローバル・パートナーシップの活性化を図るために、 医療協力、学術交流、EPA（経済連携協定）、外国人研修制度による医療・介護人材の研修等 を推進する ● 本会が持つ施設運営ノウハウの共有等 を通して、近隣諸国を中心に 国際連携を深める

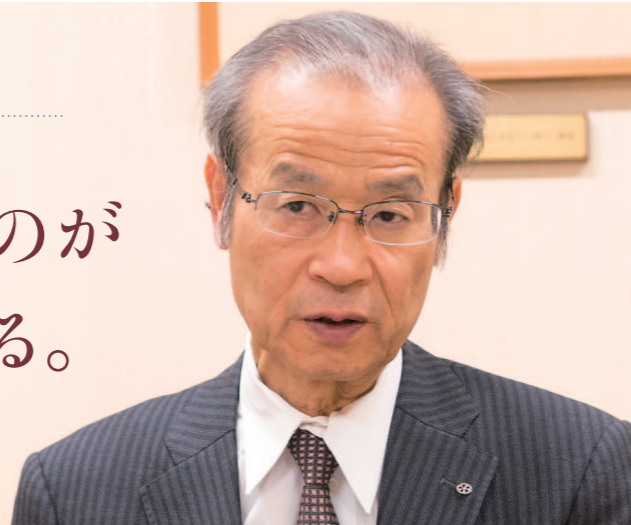


済生会はベトナム・ダナンがん病院と連携し、2014年から研修生（医師）を受け入れている 写真＝研修生の面接のため訪問した国際連携推進委員会・三角隆彦委員長とダナンがん病院・ロン院長



済生会は自治体、企業、地域のコミュニティ、NPO等と協働で、困窮者支援をはじめさまざまな活動を展開 写真＝福岡総合病院では、NPOと連携してホームレス対象にインフルエンザの予防接種を行なっている

濟生会の活動そのものが世界につながっている。



1. 理事長は、SDGsをどのようにお考えでしょうか？

SDGsは、大きな世界史の流れの中でとらえる必要があります。第二次世界大戦の惨禍で多くの人命が犠牲になり、悲惨な被害が生じました。その反省から、世界人権宣言、世界銀行の設立など、地球全体の平和や経済発展を目指していこうという流れが生まれたのです。特に、各国が協力し、途上国を対象に生活水準の向上や経済発展に努力をした到達点がミレニアム開発目標※1 (MDGs) であったのだと思います。そして、その発展上にSDGsが位置付けられるのです。

では、なぜSDGsが登場したか考えると、私はミレニアム開発目標に2つの点で課題が生じてきたからだだと思います。1つは途上国の問題が残り、世界全体が協力を強め、改善に努力する必要があること。もう

1つは先進国内に目を向けてみたら、先進国においても多くの問題が生じているのが認識されたことが挙げられます。先進国も含めた国際目標として2015年に国連で採択されたSDGsは、途上国を対象としたミレニアム開発目標の発展上にあるのだと思います。持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現させるための国際目標であるSDGsの「誰一人取り残さない」という理念は、先進国においても社会的な排除等が行なわれている問題に通じるもので、私が取り組んでいるソーシャルインクルージョン (P04参照) の理念とも同一であると考えています。



広島県済生会は、西日本豪雨災害で被災した坂町の要請で「地域支援センター」を開設。各種相談・住居巡回訪問等の支援活動を行なった

2. 済生会の事業とSDGsの関係をどのように捉えていますか？

本会は、明治44年に創設以来「施業救療の精神」を体現すべく、「生活困窮者への援助の積極的推進」「地域医療への貢献」「総合的な医療・福祉サービスの提供」を果たすべき使命の「3本柱」と位置付け、事業を展開してきました。本会のこのような理念や事業は、SDGsの理念と正に同じであると思うのです。従いまして、本会としても事業を通じて真正面からSDGsに取り組みたいと思い、中期計画と関連付けを行なったのです。

本会の理念とSDGsの理念は親和性が高く、中期計画とも関連付けを行なっているため、何も特別なことをする必要は無いと思います。これまでやってきた事業を強化していけば、SDGsの目標達成に自ずから貢献できるものと思います。しかしながら、地球規模の経済、社会および環境の優先課題や2030年のあるべき姿を示したSDGsの17の目標と169のターゲットは、より具体的に取り組む方向性を示していますので、これらを意識しながら取り組む視点も必要であると思います。

また、SDGsを国だけが取り組む目標と誤解されているかもしれませんが、我々のような社会福祉法人も、地方自治体、企業、教育機関、NPO等も取り組むことが求められています。すなわち国民一人ひとりが関心を持って取り組むことが求められていると言い換えることができるのだと思います。本会も40の都道府県支部、700を超える施設や事業、6万人を超える職員を擁していますので、SDGsの精神や趣旨を理解して、中期計画とSDGsの目標達成に向けて取り組むことが求められていると思います。

3. 済生会として、具体的にどのように取り組めばよいでしょうか？

17の目標や169のターゲットの全てに取り組む必要はありません。取り組み主体がそれぞれの事業や特性に合わせて効果的に取り組むことが必要だと思いますし、各目標やターゲットと親和性の高い事業を行なっている関係者と効果的に連携を図っていけばよいと思います。したがって、取り組みや方法も各主体によ

って変わってくると思うのです。

アプローチとしては、大きく2つあると考えています。1つ目は、真正面から事業として取り組み、目標達成に貢献するアプローチです。

具体的には、開発目標の3番目にある「すべての人に健康と福祉を」が本会の本業ですので真正面から取り組み、医療・福祉の事業を強化、発展していくことで目標達成に貢献できると思います。しかし、SDGsの開発目標に掲げられた趣旨に鑑みると、社会の課題を的確にとらえ、「済生会ならではの」事業を追究していくことが求められると思います。特に中期計画の重点項目「総合的な医療・福祉サービスの提供」に示した地域包括ケアを推進していくことです。ここで本会が推進する地域包括ケアの特徴は、1つ目に対象者を高齢者に限るのではなく、子ども、障がい者、刑務所出所者、難病患者、生活困窮者等、本会を必要とする人すべてを対象とします。また2つ目として医療・介護・福祉サービスだけではなく、教育、就労、住まい、生活支援、余暇活動等の周辺分野にもサービス範囲を広げていくことです。本業の医療・福祉サービスを効果的に届けるには、このような本業周辺サービスも行なっていく必要があるのです。3つ目として、当事者の立場に立って、必要なサービスを組み合わせ、地域包括ケアを作り上げていくことが本会に求められ

中期事業計画の「まちづくりへの寄与」こそ、ソーシャルインクルージョンの実践となる



山口刑務所内の「介護職員初任者研修」訓練で講師を務める炭谷理事長

炭谷 茂 (すみに・しげる) 1946年富山県高岡市生まれ。東京大学法学部卒業後、旧厚生省に入省。2003年環境事務次官に就任。08年より済生会理事長。財団法人地球・人間環境フォーラム理事長、日本障害者リハビリテーション協会会長、富山国際大学客員教授などを兼任

※1 ミレニアム開発目標 = 2000年の国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言と、それ以前の主要な国際会議やサミットで採択された国際開発目標を統合しまとめられた国際目標。2015年までに達成すべき目標として8つのゴールと21のターゲットを掲げている。

社会貢献は 創立の原点

済生会は、
地域の医療・保健・福祉を
担っています。

済生会は明治天皇の「済生勅語」に基づき明治44年設立されました。社会に増大した困窮者に無償で医療を行ない、それによって生を済すくおうというのです。各地に診療所を設け、貧困所帯に無料の特別診療券を配布して受診を促したほか、巡回診療班を編成して困窮者の多い地区を回り診察・保健指導を行ないました。

第二次大戦後、済生会は財団法人から社会福祉法人に改組して再スタートを切りました。天皇のお志を忘れないため、「社会福祉法人 済生会」を現在も正式名称としています。

現在、第6代総裁に秋篠宮殿下を推戴し、会長は有馬朗人、理事長は炭谷茂が務めています。公的医療機関として指定されており、全国40都道府県で97の病院・診療所、約300の福祉施設等（平成29年度）を運営し、約6万人が働く日本最大の社会福祉法人です。平成29年度は、生活困窮者212万人を含め延べ2500万人以上が本会を利用されました。地域の方々の目線に立って、皆さまに最適な医療・保健・福祉を総合的に提供することが、われわれの最大の使命だと考えています。



秋篠宮殿下



明治天皇

明治	大正	昭和	平成
●44年 2月11日	●1年10月24日	●20年 8月21日	●12年 4月 3日
明治天皇「済生勅語」を發し、お手元金150万円ご下賜	紋章として「なでしこ」を制定	第3代総裁に高松宮宣仁親王殿下	第5代総裁に三笠宮家の寛仁親王殿下
●44年 5月30日	●5年 4月 1日	●26年 8月22日	●22年12月10日
済生会の設立許可（創立記念日）	看護婦講習所開設認可	医療法による公的医療機関に指定	本会のマスタープラン「第四次基本問題委員会報告」
●44年 8月21日	●12年 4月 2日	●27年 5月22日	●23年 5月30日
初代総裁に伏見宮貞愛親王殿下	第2代総裁に閑院宮載仁親王殿下	社会福祉法人として認可	創立100周年記念式典 天皇皇后両陛下ご臨席
●44年 9月 9日	●12年 9月 1日	●37年10月 7日	●25年 4月 1日
医務主管に北里柴三郎	関東大震災 臨時に巡回看護班編成	巡回診療船「済生丸」進水式	第6代総裁に秋篠宮殿下
		●62年 4月21日	●26年 1月15日
		第4代総裁に高松宮宣仁親王妃喜久子殿下	4代目済生丸就航
			●29年 4月 1日
			第13代会長に有馬朗人

づくり、職員のキャリアアップに努めることで目標達成に貢献できると思います。また7番目にある「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」に関しては、多くのエネルギーを消費している者の責務として、地球環境に配慮した省エネルギー対策を着実に図っていく必要があります。他にも4番目にある「質の高い教育をみんなに」に関しては、直接的に教育を行なう機関ではないですが、生活困窮者の支援や貧困対策の一環として、教育機関等と連携した子どもへの教育機会の提供、子ども食堂等の支援を行なっていきたいと思ひます。

4. 済生会が取り組むにあたって、留意点や工夫すべき点はありますか？

SDGsの目標とターゲットは、それぞれ各個別に目標達成を迫るものではないと考えています。これらの目標やターゲットを組み合わせ、融合させながら取り組むことが必要であるし、その方が効果的であると考えています。例えば、私が推進している環境福祉学という学問領域は、「環境」と「福祉」を融合させることで生まれる視点や効果的な問題解決の手法を提示しています。

具体的には、開発目標の1番目にある「貧困をなくそう」と8番目にある「働きがいも経済成長も」という目標は、個別に取り組むよりも貧困対策の一環として就労の機会を提供していくことで、経済成長も図っていくといったような好循環を創り出すのです。他にも、貧困対策のために産業振興をしていく中で、公害等の環境問題が発生してしまうといったように、個別的に目標に取り組むことで、他の目標に意図しない影響を与えてしまう可能性があります。したがって、矛盾の生じないように課題を両立させて解決していく方法を考える必要があるのです。その背景には、SDGsの目標やターゲットを個別的に捉えるのではなく、1つのまとまりとして、全体を包んでいるものがあると思うのです。その根底には一人ひとりの尊厳、一人ひとりの人生を豊かに、生きがいのあるものにしていくという思いがあります。

済生会が、中期計画と関連付けてSDGsに取り組むことで、最先端の取り組みを積み重ねていき、日本国内に留まらず、世界へ発信、貢献していきたいと思ひます。その結果として本会の事業発展にも繋がっていくと確信しています。

目標やターゲットを融合させて取り組むことで、好循環を創り出す

ています。このような取り組みは日本国内だけではなく、国際社会にもモデル的な実践として示しているのではないかと考えています。

また開発目標の1番目にある「貧困をなくそう」は、本会107年の創設以来の根幹であり、「済生勅語」において示されている「施薬救療の精神」と一致します。



静岡県済生会総合病院で実施している外国人無料健康相談・健診会。2018年10月は117人が受診

中期計画の重点項目「生活困窮者への援助の積極的な推進」において示した「なでしこプラン」を中心として、ホームレス、刑務所出所者、障がい者等の生活困窮者の支援を積極的に行なっていくことが本会の社会的使命です。また法的義務である無料低額診療も引き続き着実に推進していきます。

さらに、開発目標の11番目にある「住み続けられるまちづくりを」は、中期計画の重点項目「新たな分野への挑戦」として掲げた「まちづくりへの寄与」と非常に親和性が高い目標です。ソーシャルインクルージョンの実践となるまちづくりに挑戦していくことで、SDGsの「誰一人取り残さない」という理念を具体化できます。ソーシャルインクルージョンの理念の下、高齢者、障がい者、子ども、ホームレス、刑務所出所者等すべての人々に対して、医療・福祉サービスや周辺サービスの提供を通じて、可能な限り住み慣れた地域で安心して生活を継続することができるようなまちづくりに寄与していきたいと思ひます。その結果、雇用創出、産業振興、居住人口増加等が実現できます。

もう1つのアプローチとしては、事業を遂行する過程を通して、併行的に目標達成を図っていくアプローチです。例えば、開発目標の5番目にある「ジェンダ平等を実現しよう」に関しては、本会の職員に占める女性職員の割合が高いので、誰もが働きやすい職場